ペットボトルをリサイクルして作られる製品は多様化している。

メーカーは、容器包装リサイクル法によって、ペットボトルのリサイクルを義務づけられている。これまでは、回収されたペットボトルは、食品トレーや卵パックなどに作り直されるものが多かった。

だが、環境に対する消費者の意識が高まっているため、これまでになかった方法でペットボトルをリサイクルすることは、資源循環や環境保護を重視しているという企業姿勢のアピールにもつながる。このため、企業は、ペットボトルを再利用して

ペットボトル リサイクル 様々に

様々な製品を作るようになる フェースシールドやバッグに

日本コカ・コーラは、新型コロナウイルスの感染が拡大して、この夏、ペットボトルを使った簡易フェースシールドを約1万枚作り、全国の医療機関に無償で提供した。同社の担当者は「ペットボトルから様々な商

品が作れるという可能性を示したかった」と話す。イギリスのバッグブランド「アニヤ・ハインドマーチ」が6月に発売したのは、ペットボトルから作ったバッグ「I AM A Plastic Bag」。バッグ

生活 調べ隊

はコットンのような風合いで、ペットボトルをリサイクルした繊維で作られている。Lサイズのバッグには、500g・30のペットボトル32本分の繊維が使われている。ロゴ入りのLサイズで8万9000円(税抜き)。ほかにポーチやカードケースなどもあり、担当者は「製造の過程に『循環』という考えも織り込んだ。商品の背景に共感して買うお客が多い」と、人気の理由を説明している。

公共施設 給水器を

取材を終えて 外出時は、子どもに水筒を持たせている。中身がなくなると、ペットボトルの飲み物を買って補充していた。空にしたばかりのペットボトルを捨てるのは心苦しいが、給水器が身近になかったためだ。公共施設などへの給水器の設置を進めてほしい。

「小さな活動は、続けないと大きな効果がない」。給水スポットを検索できるアプリ「マイミズ」を作った

さんの言葉が印象に残った。取材をきっかけに、ペットボトルとの賢い付き合い方を考えていきたい。新型コロナウイルス対策として、水筒をしっかりと洗うことも続けていく。